

島の農村風景や文化、後世に 遊休農地発生防止、地域活性化へ多彩な活動

香川・土庄町 小豆島陽当の里伊喜末

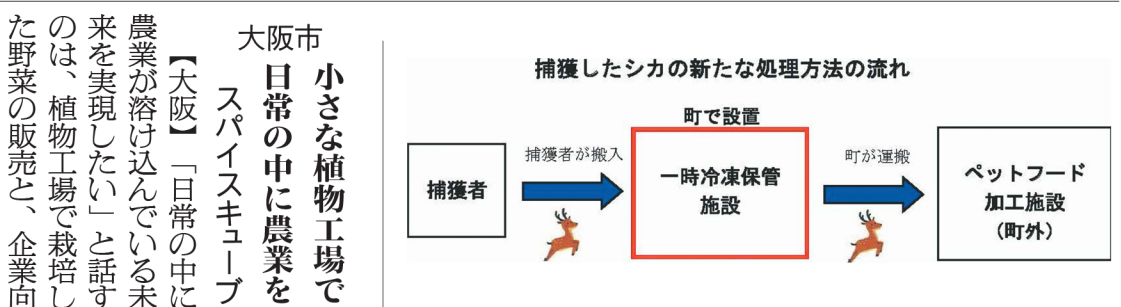


【香川】土庄町の集落
営農組織「小豆島陽当の
里伊喜末」(濱中紀仁会
長、構成員22人、201
7年12月設立)は、地元
食品企業などの連携に
よる特産物づくりなど
で、条件不利地の島嶼部
(小豆島)での遊休農地の
発生防止・解消や地域の
活性化につなげている。
特に、かどや製油(株)



(東京都)と同町とのご
まのみらいプロジェクト
は2年目を迎える。今年
はゴマの栽培面積を昨年
の2倍の20㌔に増やす
とのことで、5月8日に
は3者がそろって種まき
した。小学生の食育体験
活動も取り入れながら、
11月の収穫祭での販売ま
で進めていく計画だ。
同組織では、古くから

栽培されていたゴマのほ
か、サツマイモなども収
穫祭で販売し、例年にぎ
わいを見せている。また、
農業改良普及センタ
ーのマッチングによる小
豆島に移住したビール釀
造家と連携した二条大麦
の栽培や、地元食品企業
と連携した香川本鷹とパ
ジルの契約栽培などにも
取り組む。女性部が加工
品づくりなどで活躍し、
先月に認定新規就農者とな
った30代のUターン就
農者が組織に加わったこ
とも明るい話題だ。
同町農業委員会会長も
務める濱中会長は「遊休
農地を増やさないことは
当然として、芋づるの塔
など伊喜末の農村風景、
文化を引き継いでいきた
い」と力強く語った。



【鳥取】岩美町では、捕
獲したシカを一時的に冷
凍保管する施設が昨年10
月に完成。捕獲個体を集
積し有効活用している。
同町では、水稲を中心
とした農作物にイノシシ
やシカなどによる被害が
発生。特に2014年度
以降はシカの生息数が著
しく増大し、23年度には
過去最高の1432頭の
捕獲を記録した。
しかし、捕獲従事者の

減少や高齢化もあり、捕
獲後の埋設処理などの負
担軽減が求められていた
ため、特に捕獲頭数が多
いシカの捕獲個体を集積
するための一時冷凍保管
施設を整備した。
捕獲従事者が捕獲した
シカを施設に冷凍保管
し、週に1回から2回、
町外の加工処理施設に運

搬してペットフードの原
材料として有効活用して
いる。捕獲従事者は、今
後も継続して捕獲に従事
できると施設の完成を喜
んでいる。
同町では、シカ以外の
捕獲個体の処理について
も、食肉などとしての有
効活用も含めて検討する
ことにしている。

農産物の魅力、『レモ兄』が発信

広島・東広島市 大嶋憲人さん

産地コーディネートとして活躍



【広島】黄色のつなぎ
にレモンのかぶりもの。
「レモ兄」こと東広島市
農家や農産物の魅力を発
信している。

豊栄町の空き家で活動予定の大嶋さん

前職の農産
物ブランド開
発業務で、北
海道から奄美
大島までの農
家へ出向き取
材していたと
き、大崎上島
町でレモン栽
培を営みつ

つ、地元の高齢農家から
仕入れた柑橘の通信販売
や情報発信を担う(株)ア
ンドピリオドの藤中拓弥さ
んと出会った。
取り組みに自分の経験
を活かせるのではと東京
から東広島市へ移住し、
同社の役員として入社。
農産物のブランド化や販
路の新規開拓など生産以
外の業務を担い、農家を
サポートする「産地コー
ディネーター」を県内各
市町に配置することをめ
ざしている。

大嶋さんは東広島市の
産地コーディネートとして
活動の拠点を作ると
まで多岐にわたる。
設立当初は農地の確保
に苦慮したという。「市
や農業委員会が、農地探
しから手続きに至るまで
親身にサポートしてくれ
た」と話す佐々木さん。

当初は70㌔だった圃場
は、現在は10㌔を超える
までになった。さらに、
19年にはノウフクJAS
認証を取得し、JAや県
内のスーパーなどへの出
荷に加え、県外のフェア
やマルシェにも販路を広
げた。

堀川さんは「今後は知
識や経験のある高齢者を
雇用し、役割分担を行う
ことで地元農業を活性化

し、耕作放棄地の解消に
もつなげたい」と意気込
みをつ語った。
(西都市農業委員会)

農業活性化めざす ノウフクJAS認証を取得



堀川さん(右)と佐々木さん

【宮崎】西都市の農業
法人(株)CoCoRoファ
ームは、障がい者就労施
設を運営する(一社)S
TEPUP代表の堀川
佳恵さん(50)が、20
16年に設立した。
同ファーム統括の佐々

木幸一さん(50)の栽培
指導のもと、就労継続支
援A型事業所の利用者22
人と社員5人で水稲10㌔
や施設ズッキーニ20㌔、
露地野菜を作付ける。作
業内容は収穫や圃場の草
刈り、カット野菜の加工

まで多岐にわたる。
設立当初は農地の確保
に苦慮したという。「市
や農業委員会が、農地探
しから手続きに至るまで
親身にサポートしてくれ
た」と話す佐々木さん。

当初は70㌔だった圃場
は、現在は10㌔を超える
までになった。さらに、
19年にはノウフクJAS
認証を取得し、JAや県
内のスーパーなどへの出
荷に加え、県外のフェア
やマルシェにも販路を広
げた。

堀川さんは「今後は知
識や経験のある高齢者を
雇用し、役割分担を行う
ことで地元農業を活性化

し、耕作放棄地の解消に
もつなげたい」と意気込
みをつ語った。
(西都市農業委員会)

「農業を憧れる仕事に」 農福連携で就労支援

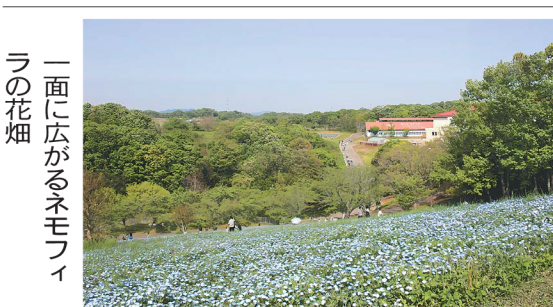
福岡・大牟田市
あぐりす大牟田

利用者や作業しやすい
ようにニンニクやネギな



ながわらを持つ利用者と原田さん(右端)

現在は露地栽培
の土壌被覆などに
利用する「ながわ
ら」の加工も手が
ける同社。原田代
表は「先人の知恵
と技術も大切にし
ながら、利用者に
『農業は輝かしい
仕事・憧れる仕
事』と感じてもら
えたら」と思いを
語る。



一面に広がるネモフィラの花畑

西宮市から来園した親
子連れの30代の女性は
「子どものころ、親に連
れられ遊びに来た思い出
深い公園。今日は自分が
子どもを連れてかれんな
花畑を見ることができて
うれしい」と語った。

地方総合

各地の話題